

各団体との意見交換で出された主な意見まとめ

H30. 9. 14	中山間事業・富良野市集落協議会役員
H30. 9. 26	J Aふらの青年部役員
H30. 10. 15	〃
H30. 9. 26	農業委員会農地部会
H30. 9. 26	富良野市営農活性化対策協議会幹事会
H30. 10. 11	J Aふらの女性部役員
H30. 12. 13	農作業請負事業者
H30. 12. 26	富良野酪農組合役員及びふらの農協酪農部青年部役員
H31. 1. 9	J Aふらの東山地区役員（農村振興）
H31. 1. 24	ミニトマト部会役員
H31. 1. 28	J Aふらの役職員

○中山間事業・富良野市集落協議会との意見交換

【労働力】

- ・労働力は一番の課題。現在、雇っている人も高齢化が進んでいる。このままだと施設園芸の規模を縮小せざるを得ない農家が多く出てくるのでは。

【ブランド】

- ・GAP等の認証資格は、今後も中山間で助成事業を継続し、取得者を増やすことが重要。個人ではなく生産部会など大きな括りでいかないと、メリットが薄いのではないか。

【人材育成】

- ・担い手の減少・規模拡大により営農以外の手が回らなくなってきた、役員の担い手がいない、人によっては何役もこなしている状況。若手への研修機会を増やし、担い手を作っていかなければ。

【鳥獣害】

- ・鳥獣被害が拡大しているように思われる。電気柵等の要望が増加傾向。中山間事業でも新たな対策が必要か。

【地域振興】

- ・中山間事業の農村活性化対策事業は、東山でのボッチ保存やフットコンなどを支援している。農村の住民自らが汗をかき、地域を盛り上げることが大切だと思うので、今後の拡大を促していきたい。

【農家後継】

- ・後継者のいない高齢農家と後継者がいる農家とでは、欲しい機械が違い共同での購入が困難になってきている。農家後継者を対象とした助成事業があってもいいか。

【生産】

- ・最近、麦に関する機械導入の希望が多くなってきている。作付が麦ばかりが多くなるのを懸念

【生産】

- ・ICT技術・スマート農業に関する機械等は、今後導入を支援していきたい。しかし、使える人と使えない人との調整が難しい。研修会等で技術の普及が必要。

【農地】

- ・機械の大型化が進んできたが、富良野のほ場条件からすると、これ以上の大型化は難しいか。しかし、規模は大きくなっており、このままでは作業が追い付かない可能性も。機械導入だけではなく、こういった対策の事業を中山間事業でも考えていく必要があるか。

○JA ぶらの青年部役員との意見交換

【労働力】

- ・現状で拡大は難しい状態であるが、労働力があれば可能と思っている。
- ・農家の親父は他で働いた経験がない人が多く、人を使うことに慣れていない。
- ・少しでもいい人に来てほしいと考えたら、自分のところで雇う、常雇になってもらうことを考える時期にきている。
- ・ヘルパーさんも残りたいという声を聞くが、冬期にいられるだけの職がなく、夏場に賄えるだけの貯金もできないから、しかたなく去ってしまう。
- ・外国人は一生懸命働いてくれると聞いている。住環境が整備できれば雇用も進むのではないか。
- ・外国人も含めて多くの労働者は、働く場所は農村・農家でも構わないと思うが、住む場所は利便性からまちなかを望むと思う。個々の住環境整備も必要だが、家賃補助などまちなかで住みながら農業で働けるような仕組みができないか。
- ・労働力を確保しやすくするためには、法人というのも手だと思うので、法人化する際の支援もあっていいのではないか。
- ・今の労働力では施設園芸を減らすしかない。
- ・出面さんは高齢化が進んでいるが、いままでの作業を整理して、少しでも長く働けるよう、環境を整えたい。

【生産】

- ・人が足りないのでどうしても麦が多くなり、輪作が組めなくなっている状況がある。
- ・IT技術でどこまで省力化ができるのか。このままでは施設園芸か土地型にするのかどちらかに選択をしなければならない時が来ると感じている。

【研修】

- ・技術的なことは親から学ぶことが大部分であるがそれがいいのか、もっと違うやり方

があるのか知りたい。

- ・親父が経営内容を把握しており、自分がすべてを知っているかと言えばそうではない。
- ・新たな技術などの研修はあるが、根本的・基本的な技術の研修も受けたい。当たり前の農作業でも、なぜこの作業が必要なのかなど。
- ・経営についてもっと勉強したい。少し前に決算書の見方などの研修があったが、それにより自分の家の経営内容がわかってよかった。

【鳥獣害】

- ・鹿柵は維持管理の負担が年々重くなってきている。管理する人も減り、若年層への負担が大きくなってきている。
- ・地区ごとの管理では人手が足りず厳しくなってきた。維持管理をしてくれる外部組織へ委託か、新たな組織を作って、そこで管理するなど手を打つ必要があると感じている。
- ・老朽化により傷みが激しい。更新時期が来ていると思う。

【IT技術】

- ・今年のように雨が多いと畑に入れないので、ドローンの普及を広められないか。
- ・市で行っているスマート農業の補助は今後も継続して行って欲しい。これだけ面積が大きくなると省力化を進めざるを得ない。

【GAP】

- ・必要性は感じるが、費用がかなり負担となる。
- ・個々ではあまりメリットを感じない。やはり部会単位など大きなパイでやらないと。

【商工との連携】

- ・まちなかで富良野産が少ないと感じる。飲食店へ活用をもっと促したい。PRしたい。繋がる場が欲しい。

【農地】

- ・観光客が畑に勝手に入ることが多くなっている。それは外国人・日本人に限らず。畑に入ってはいけないことの啓蒙が必要。
- ・外国人に関しては畑に入らないこともそうだが、交通ルールの啓蒙も必要では。

○農業委員会農地部会との意見交換

【労働力】

- ・ヘルパーの人材確保は使う側（農家）の意識改革がまず必要
- ・当たり前のことだが、人として扱う、自分の嫌な仕事ばかりを押し付けてこき使うなど、これを改善しない事にはリピーターは確保できない。
- ・農家の労務に関する研修が必要。（労働力対策）
- ・富良野はヘルパー寮があるのが他の地域よりも優位な点、雇用環境が改善されればリピーターとなるのでは。
- ・冬期の雇用をどうするか。これが北海道の弱み。冬にヘルパー寮は閉まってしまう。

まずはこういうところから改善していく必要があるのではないかと。

- ・冬場だけでも安く借りられるところ、または空いている公住を安く貸すことや、冬期間に農業以外の分野で働いてもヘルパー寮に滞在できるなどの対策はできないものか。

【農地】

- ・1戸当たりの耕作面積が増加、だけどハウス面積は維持したい。この2つは相反しているが、近年の気象変動は激しく「複合経営」というのが安定経営には欠かせないと考えている。
- ・農地の流動は、面積が20年前の半分ほどとなっている。農家数が半減し個々の経営力がついてきたことが大きな要因と思うが、離農状態になっても売らない人もおり流動化が進まないことも出てきている。

【継承】

- ・農家後継者となる人を囲うための支援の拡充が必要では。新規参入は施設園芸中心となるため、農地の担い手にはならない。その点、農家後継者は農地を増やせる可能性が新規参入よりも高い。

○富良野市営農活性化対策協議会との意見交換

- ・現状と課題について、記載されている内容と認識のズレはない。
- ・外国人技能実習生の受け入れ状況の把握しておくべき。今後の対策にも関わってくると思われ、現在の受入農家がどのくらいいるのかも必要。

○JAふらの女性部役員との意見交換

【労働力】

- ・東山は特に人手がないと感じている。まちなかの人にはなかなかここまで働きに来てくれない。
- ・外国人の受入で、外国人は地域活動の担い手にはならないと思う。文化の違いが受け入れられる範囲なのか、できれば農業だけではなく地域活動も一緒にやってくれる方がいい。なので、出来るだけ地域の方を雇用したい。

【スマート農業】

- ・園芸は大変。省力化できるならどんどん導入したいが、コストの面で厳しいのかなと思っている。今も事業があるようだけど、さらなる導入支援をお願いしたい。

【関連事業への取り組み】

- ・関連事業への取り組みを行っている農家の割合は増えているとのことだが、面積がこれ以上拡大したら手が回らなくなるかも。
- ・十勝は土地利用型なので、まだ時間があるかもしれないが、富良野は園芸があるので農作業して、直売所して、地域活動もしてとなると…時間がない。
- ・6次化は耕種では厳しいと思うが、酪農家さんは商品化もしやすいし規模が大きな人も

多いから可能性があるのでは。

【農地】

- ・東山は多品目なので作業も多いと感じている。区画整理してもっと大きくできればと思うが。

○富良野酪農組合及びふらの農協酪農部会青年部 役員との意見交換

【情報インフラ】

- ・農村部への情報インフラ整備の充実は重要と考える。生活基盤のみならず、農業経営においても必要。現在、牛の個体管理システムを導入しているが、データ処理が遅く導入した意味がない。
- ・農場まわりは無線LANでいいが、農場に来るまでの整備は必要ではないか。

【労働力】

- ・酪農でいえば、富良野は今のところ酪農ヘルパーは間に合っている。(沿線は別)しかし、新規の確保は厳しく、今いる人が長く雇用されている状況。今後、高齢化が進むと問題が深刻化すると考えられる。
- ・H27頃から求人サイトで募集しても集まりづらくなった。
- ・外国人技能実習生としてベトナム人の受入を考えていたが、それもなかなか人材が見つからない。
- ・今後は外国人の雇用を拡大という話もあるが、農業と観光が基幹産業なのだから、まずは市民の雇いを拡大することが大事では。働いてみたいと思わせることが必要では。
- ・酪農ヘルパーも朝と夜の作業を分けるなど作業を細分化して、短時間勤務の人を受入れるといったことは可能であるが、問題は人を振り分ける・仲介する人、組織が必要。
- ・酪農も戸数が減っているが規模拡大したい人が多く、今後も生産量は維持できると考える。

【省力化】

- ・規模拡大を考えれば、労働力の他に省力化の技術・機械の導入を進めていくことが重要。
- ・搾乳ロボットを入れれば、簡単に頭数を増やすことが可能な時代。
- ・IT技術(スマート農業)を今後導入していくためにも、情報インフラの整備の充実が不可欠。

○農作業請負事業者との意見交換

- ・ヘルパーは減少傾向、今後も続く。調達範囲を拡大しているが限界か。
- ・外国人は本格的に確保に向かうのか、これから議論が必要。
- ・相対雇用は、まずは個々の農家が環境を整えることが大切では。
- ・相対雇用の方が時給は高いかもしれないが、雇用期間でいえばヘルパーは様々な仕事があるので長く続けられるメリットもある。

- ・一概に賃金だけでいい悪いと言えない。「働きやすさ」を求める声も大きい。

○J Aふらの東山地区役員・農村振興についての意見交換

- ・東山では近年、極端な気候変動による影響が大きく、農作物の被害が続いている。今後、安定的な農業生産を維持し持続可能な経営とするため、園芸ハウスを導入する助成を行う。
- ・今回の対策はハウス導入が目的なのではなく、作物転換。作付けを集約し、いかに省力化を図って収益の高い作付けを行える経営形態に転換できるかがカギとなっている。
- ・具体的に東山で作物をどう集約していくのか検討しなければならない。また、ハウス導入だけではなく、土づくりや輪作体系なども考えていく必要がある。
- ・営農意欲の減退・離農は、地域の衰退にも大きくかかわる。
- ・地域全体でどう取り組みを進めていくのか、地域で話し合い進めていく。

○ミニトマト部会役員との意見交換会

- ・常雇用の高齢化により、人手を確保したいが農村地域は地域に人がいないし、街からも遠いので、募集してもなかなか来てくれない状況。
- ・外国人の受入は難しい。何とか農作業ヘルパーを確保していくことが必要だと思う。ヘルパーにも富良野に残りたいという人が多くいると思うが、冬が課題。
- ・メロン農家と連携して、雇用期間を延ばす取り組みをしている。4～5月ミニトマト→6～7月メロン→8～10月ミニトマトというカタチ。本当は6～7月もいてほしいが、一番いて欲しい8月以降の人材を確保するためにやっている。
- ・子育てママの取り組みは、就業地が遠いところは厳しい。市内近郊での取り組みに可能性があると思う。近郊は子育てママ、東山などはヘルパーで働き手を確保するという棲み分けが必要かも。

○J Aふらの役職員との意見交換会

【働き手確保対策】

- ・外国人材よりも、まずは市内の人材、子育てママなど働ける人材を掘り起こすことが必要ではないか。
- ・子育てママの取組だが働きたい人が働ける、また、働ける時間を増やすためのサポート体制が必要ではないか。他産業も人手不足であり、農業だけではなく市全体の対策として必要ではないか。
- ・子育てママの取り組みを拡大するには、利用農家の組織というが必要ではないか。
- ・生産部会がJ A管内一つにまとってきた。行政も働き手の確保など共通する課題は、沿線を取組んではどうか。
- ・広域で対策を考える、その方が効果が上がることもあると思われるので、ぜひ、行

政も広域の視点で進めて欲しい。

【輸出】

- ・価格が折り合わない。現地では高値で売られているが、こちらの手取りが増えているわけではない。手間ばかりが増える。

【農村対策＋食育】

- ・農村地域においても情報インフラの整備が必要。光回線が未整備のため、移住者が仕事をしたくてもできない状況があると聞いている。ADSLが2023年に廃止となることから対応が必要である。
- ・富良野地区の鹿柵については、なるべく直線で設置したこともあり、現在、人が入れない状況となってしまった箇所もある。見える場所・管理しやすい場所に設置し直す必要が出てきた。
- ・地元の子供たちに地場産の良さを伝える取組みが必要だと思う。給食の地元産食材利用率を上げていくことも大切。

【その他】

- ・国や道の施策などに対し、アンテナを高くすることも重要であり、市とJAが連携して事業を進めていくことが大切。
- ・この新たな農業基本計画は、多くの農業者が入って議論を進め、まとめられている。この5年間でやるべき事が記載されているが、今後は予算化など、より具体的に取組みを実行していくことが重要であり、引き続き、このような議論を交わしながら進めていくべき。